

平成 26 年人口動態統計調査結果の概要（大阪府分）

－ 厚生労働省公表資料より －

大阪府総務部統計課 情報・分析グループ

《 詳細は厚生労働省ホームページに掲載しています。 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei14/index.html> 》

平成 27 年 9 月 3 日に、平成 26 年人口動態統計（確定数）の結果が、厚生労働省から公表されました。その中から、大阪府分の概要を紹介します。

1 人口動態統計調査について

我が国の人口動態事象を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されている「人口動態統計調査」は、「戸籍法」及び「死産の届出に関する規程」により市区町村に届け出られた出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の全数を調査対象としています。市区町村から保健所、都道府県を経由して、厚生労働省でデータを取りまとめています。

2 結果の概要

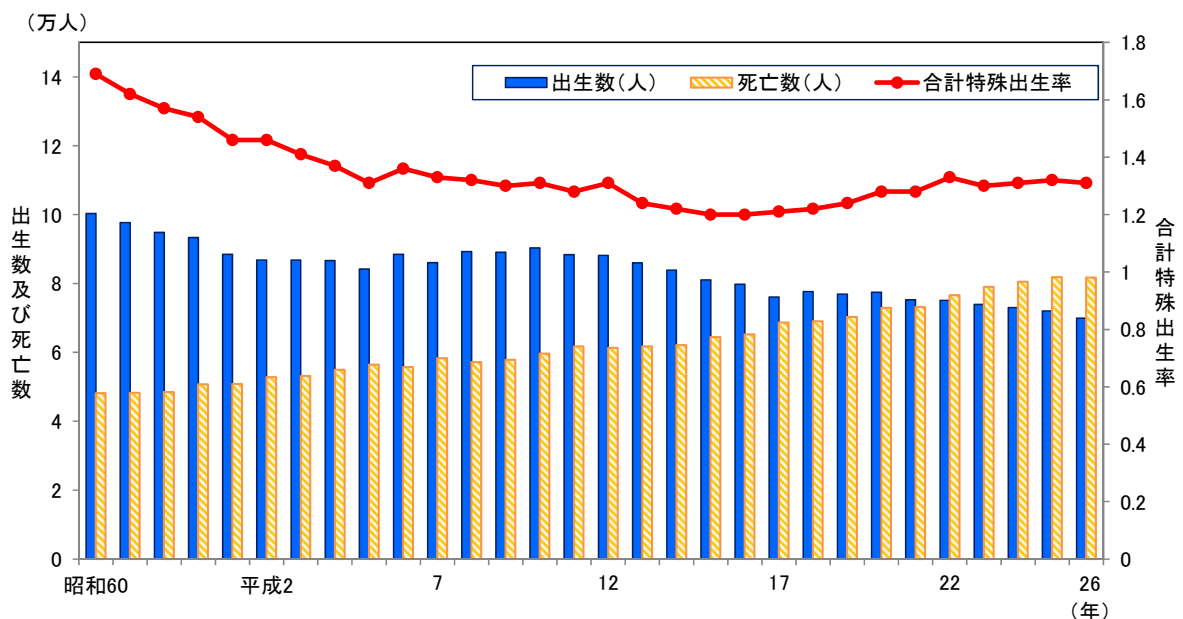
(1) 出生数は減少

大阪府の平成 26 年の出生総数は 6 万 9,968 人であり、前年（7 万 2,054 人）と比べて 2,086 人減少しています。平成 10 年（9 万 324 人）から、ゆるやかな減少傾向が続いています。

一方、死亡総数は 8 万 1,652 人であり、前年（8 万 1,864 人）と比べて 212 人減少しているものの、平成 9 年（5 万 7,864 人）から、ゆるやかな増加傾向が続いています。

また、合計特殊出生率（15～49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの）は 1.31 で、前年の 1.32 から微減しています。最も合計特殊出生率が低かった平成 15、16 年の 1.20 と比べると、わずかながら改善しています。しかしながら、この数値は、全国平均（1.42）よりも低く、都道府県別では 41 位（最高：沖縄県 1.86、最低：東京都 1.15）となっています。

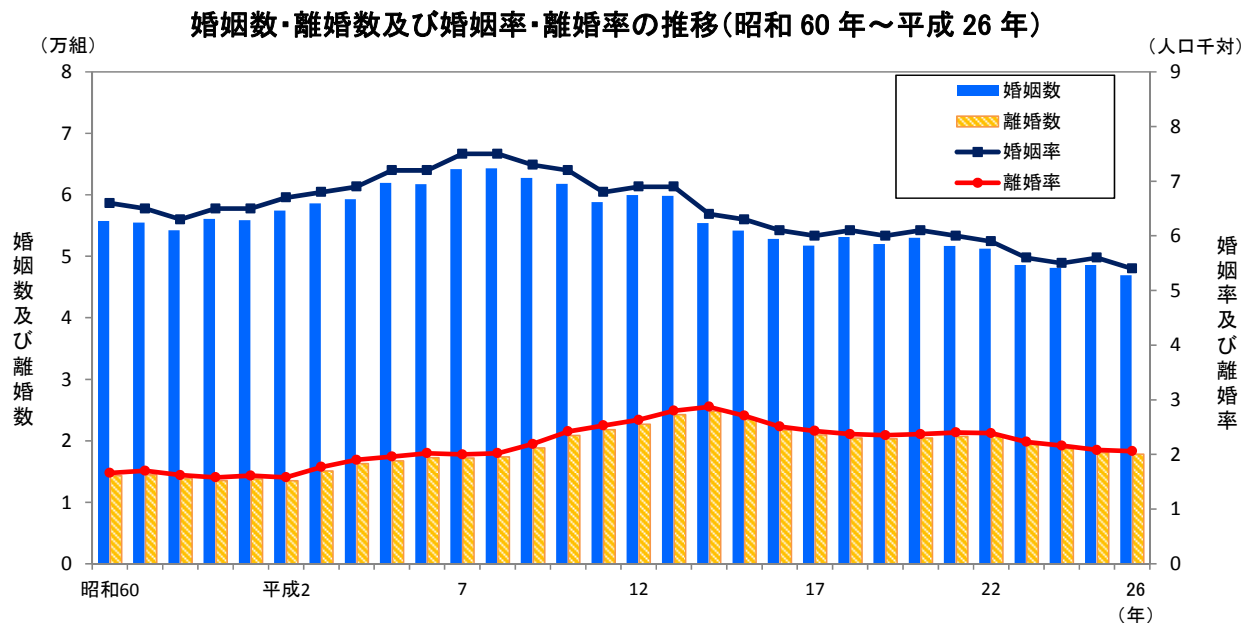
出生数、死亡数と合計特殊出生率の推移(昭和 60 年～平成 26 年)



(2) 婚姻数・離婚数ともに減少

大阪府の平成26年の婚姻数は4万6,934組であり、前年(4万8,596組)と比べて1,662組減少、離婚数は1万7,834組で前年(1万8,104組)と比べて270組減少しています。

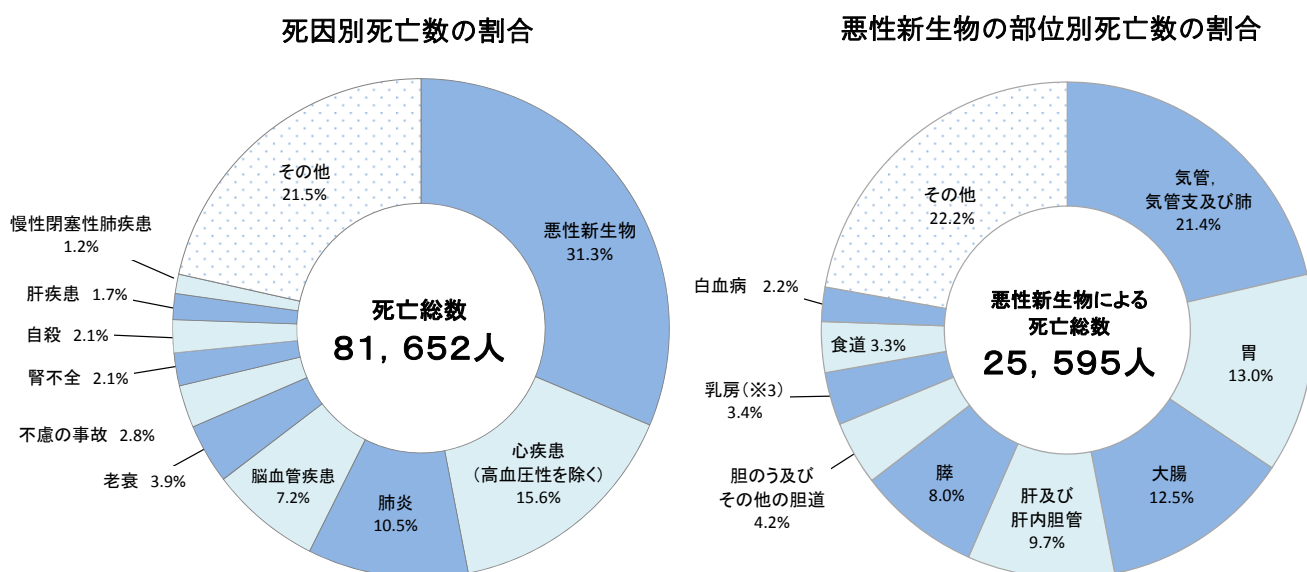
また、婚姻率(人口千人に対する婚姻数の割合)は5.4(前年5.6)、離婚率(人口千人に対する離婚数の割合)は2.06(前年比2.08)と、婚姻率、離婚率ともに減少となっています。



(3) 悪性新生物の死因が最多

死因別では、「悪性新生物(※1)」が最も多く、死亡総数の31.3%を占めています。次いで「心疾患(高血圧を除く)」が15.6%、「肺炎」が10.5%となっています。

また、悪性新生物の部位別の死亡数をみると、「気管、気管支及び肺」が21.4%を占めており、次いで「胃」が13.0%、「大腸(※2)」が12.5%となっています。



(※1) 悪性腫瘍のこと。細胞が何らかの原因で変異して増殖を続け、周囲の正常な組織を破壊する腫瘍。がんや肉腫など。

(※2) 大腸は、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸の数値を合計したものである。

(※3) 乳房の死亡数の割合は、女性の数値である。